

火災図上訓練 指導マニュアル (事業所向け)

令和 2 年 12 月 23 日

名古屋市南消防署予防課

はじめに

皆様の事業所で定期的に実施いただいている消防訓練について、こんなことを感じたことはありませんか？

「毎年、避難訓練や消火器の取り扱い訓練を実施しているけど、いつも同じシナリオなので、本当に火災に直面した時にどんな行動をすればよいのか分からない。」

「コロナ禍なので、もっと感染防止に配慮した方法で行えないか？」

「もっと手軽に実施できて、かつ効果的な方法はないか？」

といった意見です。 そのように感じた皆様へ、お薦めしたい訓練があります。

それは、「火災図上訓練」です。

火災図上訓練は、従業員の皆様や建物を利用する方を火災から守り、被害を最小限に抑えるために大変有効であり、かつ手軽に実施できる訓練です。

是非、本マニュアルをご一読いただき、皆様の事業所でも火災図上訓練を実施してみませんか？

令和2年12月23日

名古屋市南消防署予防課

目次

第1章 総論	1
1. 1 本マニュアルの目的	1
1. 2 火災図上訓練の魅力	1
1. 3 火災図上訓練の目的	1
第2章 火災図上訓練の実施について	2
2. 1 事前に準備すべき事項	2
2. 2 火災図上訓練の進行手順	5
第3章 ファシリテーターの役割	6
3. 1 ファシリテーターとは	6
3. 2 ファシリテーターに求められる役割	6

第4章	まとめ	7
4. 1	さらに高度な火災図上訓練の実施に向けて	7
4. 2	さいごに	7
別添1	火災図上訓練に参加される方へ	9
別添2	火災図上訓練のシナリオ（例）とポイント	11
別添3	火災を発見した職員の行動例	13

巻末資料

消防用設備等の取扱い説明

アイコンのイラスト集

火災図上訓練指導マニュアル(事業所向け)

第1章 総論

1.1 本マニュアルの目的

本マニュアルは、火災図上訓練の目的、事前に確認すべき事項、必要となる資機材、訓練の進行方法及び訓練進行者の役割を簡潔に示すことで、初めて火災図上訓練を行おうとする事業所の皆様の活動を支援するとともに、火災図上訓練のさらなる普及啓発を目的として、名古屋市消防局南消防署予防課が独自で作成したものです。

状況によっては、皆様の事業所を管轄する消防本部の指導内容と異なる場合があることを、予めご承知おきくださいますようお願いいたします。

1.2 火災図上訓練の魅力

火災図上訓練は、仮に皆様の事業所で火災が発生した場合、その被害を最小限に抑えるために従業員の方々がとるべき最善の行動を、訓練進行役であるファシリテーターの指示のもと、建物の平面図を利用してシュミレーションする効果的かつ効率的な訓練です。

火災図上訓練は、従来のシナリオ通りに実施する消防訓練とは異なり、訓練の参加者全員が火災発生時にとるべき行動を、自ら考えて、最善の行動を導きだす必要があるため、有事の際もその経験を基に迅速な初動対応ができるようになるため、高い効果が得られる訓練となっています。

また、建物の平面図、マグネット、メモ用紙及び筆記具さえあれば実施することができること、準備や訓練に必要な時間も短いので比較的容易に実施できること、並びにゲーム感覚で楽しみながら必要な知識や事業所における特有の課題等を発見できることも、火災図上訓練の大きな魅力として挙げられます。

1.3 火災図上訓練の目的

火災図上訓練を通じて達成すべき主な目的は、次のとおりです。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①建物に設置された消防用設備等の種類、場所及び使用方法を理解する。②消防隊が到着するまでの間にとるべき最善の行動を、全員で考え、発表してもらう。③訓練を通じて、事業所における課題を洗い出し、その対策を定める。 |
|--|

これらの目的を効果的かつ効率的に達成するため、必要となる事項を解説していきます。

2章 火災図上訓練の実施について

2.1 事前に準備すべき事項

火災図上訓練を実施するにあたり、事前に準備すべき基本的な内容と流れは、下表のとおりです。

No.	項目	解説
①	訓練する目的を明確にする	火災図上訓練を通じて、従業員の方に何を身に付けて欲しいのか、どのような行動ができるようになって欲しいのか、目的を明確にすることが大切です。 それにより、訓練で伝えるべきことも明確にすることができます。
②	訓練進行者(ファシリテーター)を決める	火災図上訓練の成否は、ファシリテーターの力量にかかっているといっても過言ではありません。 ファシリテーターは火災図上訓練の進行はもとより、訓練の企画や訓練の実施にあたっての色々な調整もすることになりますので、だれがファシリテーターをするのかを決めるのは大変重要です。 事業所の防火管理体制のことをよくご存じである防火管理者又は防火担当者の方が行われるのが最適です。
③	訓練の参加者数を決める	1人のファシリテーターの元で火災図上訓練を行えるのは多くて6人までにしてください。それ以上に多くの人が参加すると、訓練の進行管理が非常に難しくなります。 よって、ファシリテーター役の人数に応じて、ある程度、訓練の参加者数は限られます。 なお、人選の際は一つの部署の方のみで構成するのではなく、様々な部署の方にご参加いただくほうが、より訓練効果が高まります。
④	訓練場所を決める	訓練参加者の規模に応じて、火災図上訓練を実施する場所を決めます。コロナウイルス対策として、参加者同士の間隔が十分とれること、換気が十分とれるところを訓練場所にしてください。 なお、ホワイトボード又は課題をまとめたシート等を貼りだせる壁がある部屋が望ましいです。

⑤	資機材の準備	火災図上訓練で使用する資機材を準備します。 なお、建物の平面図は大きいサイズのを掲示して行うのが最適ですが、困難な場合は A4 サイズのを参加者に配って行う方法でも構いません。 【必ず準備すべきもの】 ☐ 建物の平面図 ☐ 筆記具 ☐ メモ用紙 【できれば準備した方がよいもの】 ☐ 駒として使用するマグネット ☐ ホワイトボード ☐ 駒に貼るアイコンのイラスト(巻末資料参照) ☐ ビデオカメラ
⑥	建物内の状況確認	建物内に設置されている消防用設備等の種類、位置及び避難経路の状況等を確認します。 また、病院や福祉施設など、従業員以外にも建物利用者がいる場合は、自力避難できるか否かを含めて、階ごとに概ねの人数を確認します。 主なチェックポイントは、次ページのとおりです。
⑦	火災想定 の 決定	いつ、どこで火災が発生したことにするのかを決めます。 病院、社会福祉施設及び24時間稼働の工場などは、勤務人員の少ない夜間の火災を想定してください。 併せて、火災発生 の 時間帯に勤務している従業員の数と位置を、実態に即して設定してください。 発生場所は任意の場所でもかまいませんが、大規模・多層階の建物の場合、自動火災報知設備の受信盤又は副受信盤が設置されている階としたほうが、コンパクトな訓練となります。 なお、火災想定は訓練参加者へ伝えないようにしてください。
⑧	参加者への案内	①～⑦までが済んだら、別添1を全訓練参加者に渡して、火災図上訓練のスケジュールやルールについて予め確認してもらうよう依頼してください。当日の説明時間を大幅に省くことができます。

建物内の状況についての確認事項

No.	項目	確認事項（ソフト面）	チェック
①	出火場所の決定	訓練における出火場所を選定したか？	☐
②	在館者の人数	在館者数(利用者等含む)を階別で確認したか？	☐
		自力避難困難者の有無、人数等を確認したか？	☐
③	避難経路の確認	避難経路の場所と状況を確認したか？	☐

No.	項目	確認事項（ハード面）	チェック
①	消火器	設置場所を確認したか？	☐
②	屋内消火栓	設置場所を確認したか？	☐
		扉を開け、記載の操作手順を確認したか？	☐
		一人操作か二人操作するものか確認したか？	☐
③	スプリンクラー設備	スプリンクラーヘッドの設置場所を確認したか？	☐
④	自動火災報知設備	受信盤の設置場所を確認したか？	☐
		受信盤の窓にある警戒区域を確認したか？	☐
		受信盤付近に「警戒区域図」があるか？	☐
		発信機の設置場所を確認したか？	☐
⑤	火災通報設備	設置場所を確認したか？	☐
		操作方法を確認したか？	☐
⑥	放送設備	設置場所を確認したか？	☐

2.2 火災図上訓練の進行手順

訓練の進行手順は、概ね下表のとおり実施してください。なお、訓練時間は1時間を目安としてください。

No.	手順	ポイント	時間
①	訓練の趣旨	訓練参加者に対し、火災発生から消防隊が到着するまでの数分の間、どのような行動をとるべきかを皆で一緒に考えることが訓練の目的であることを説明してください。	2分
②	訓練の進行手順及びルール	別添1を事前に見たか確認してください。見ていない場合、同資料を参考に、基本的なルールを説明してください。	3分
③	消防用設備等の種類及び場所の確認等	事業所に設置されている消防用設備等について、種類や場所を参加者に尋ねて回答させるようにしてください。そして、図面に設備(消火器、屋内消火栓及び自火報の受信盤に限る。)の場所を明示してください。	5分
④	火災想定との付与	出火時間、出火場所、火災の程度、従業員の勤務人員、勤務場所、在館者の人数等を明確にしてください。 また、勤務人員、在館者及び出火場所を図面上に明記してください。	5分
⑤	図上訓練開始	火災想定に対し、最善と思われる従業員の行動を参加者に質問して回答させてください。基本的な会話のシナリオについては別添2のとおりです。 その回答を元に、図面上の駒を動かしてシミュレーションしてください。また、その行動について皆さんでディスカッションしてください。 なお、基本的な火災発生時の行動フローは別添3及び4のとおりです。	25分
⑥	課題の抽出と対策の検討	訓練参加者に事業所における課題を、別添1へ記入させてください。それを発表し、全員で対策を検討してください。	15分
⑦	終了	最後に、課題と対策をとりまとめ、すみやかに実行に移せるよう、今後の方針を明確にして訓練を終了する。	5分
合 計			60 分

3章 ファシリテーターの役割

3.1 ファシリテーターとは

ファシリテーターとは、「会議や研修などを進行する」、「参加者に発言を促す」、「話の流れをまとめる」、「時間を適切に管理する」といった役割を担う人のことです。

火災図上訓練では、ファシリテーターが訓練の進行のほか、訓練の企画、準備等を担当する例がほとんどであり、非常に重要な役割を果たします。是非、皆様の事業所においても火災図上訓練が常に実施できるよう、ファシリテーターの育成に努めてください。

3.2 ファシリテーターに求められる役割

ファシリテーターに求められる主な役割は、次のとおりです。

①訓練目標の設定と共有

ファシリテーターは、火災図上訓練をつうじて浮き彫りとなった課題や、検討した対策を集約し、事業所の初動対応能力が向上するような「気付き」を与えることが求められます。

よって、「訓練目標」を明確に設定し、訓練参加者全員が同じ目標に向かって意見交換ができるよう認識を共有させることが必要となります。

②自由に意見交換ができる雰囲気醸成

ファシリテーターは、より多くの意見を引き出すため、訓練参加者が発言しやすい雰囲気を醸成することが求められます。

よって、訓練参加者の発言に対して、ファシリテーターがその内容を否定してはいけません。仮に誤った発言がされた場合、一旦それを受け止めつつ、正解に導くための気付きを与えて改めて考えさせるなどの配慮が必要となります。

③課題及び対策の集約

ファシリテーターは、設定した「訓練目標」に対する課題と対策を集約することが求められます。よって、訓練参加者から課題や対策への発言があまりない又は趣旨から外れている場合などは、訓練参加者が見落としている初動対応能力の向上に資するための要点を説明するなど、より多くの課題や対策を出してもらう必要があります。

④訓練時間の管理

ファシリテーターは、訓練を円滑に実施するため、訓練時間を適切に管理する必要があります。訓練時間は概ね1時間を目安に終了できるよう、時間配分を行ってください。

4章 まとめ

4.1 さらに高度な火災図上訓練の実施に向けて

冒頭でも述べたとおり、本マニュアルは、初めて火災図上訓練を行おうとする事業所の皆様の活動を支援することを目的に作成したものです。よって、ここに記載した以外にも、皆様にお伝えしたい大切な事項はたくさんございます。

もし、皆様が火災図上訓練の経験を重ねられ、本マニュアルから得るものがなくなった場合は、当署が独自で作成いたしました「火災図上訓練指導マニュアル(消防職員向け)」もご参照いただくとともに、消防用設備の点検業者から詳しい設備の使い方を学ぶとか、皆様の事業所を管轄する消防本部の予防課からアドバイスをもらうなどすれば、さらに高度な火災図上訓練が実施できるようになりますので、参考とさせていただきます。

4.2 さいごに

火災図上訓練の魅力や具体的な実施方法等について、ご理解いただけたでしょうか？

火災図上訓練は、皆様の事業所における防火管理上の「課題」を皆様で見つけ出し、その「対策」を決めるために行うといっても過言ではありません。シナリオ通りに動けばよい従来型の消防訓練では、なかなか気付くことはできません。

ただ、注意していただきたいのは、何も従来型の訓練が無駄といっている訳ではありません。頭で分かっている、体が動かないことは往々にしてあります。まして、火災現場という状況では尚更です。

よって、火災図上訓練で事業所における課題と対策を整理し、その内容を実動の消防訓練に取り入れていく、つまり頭と体を共に使った消防訓練を積み重ねていくことが一番大切だと思います。

さいごに、本マニュアルが皆様の事業所における防火対策の向上に資することができたならば、これ以上の喜びはありません。

火災図上訓練に参加される方へ

1 火災図上訓練の目的

火災図上訓練は、皆様の事業所において万が一火災が発生した場合、その被害を最小限に抑えるため、消防隊が到着するまでの間に、皆様がどのような行動をとればよいのかを、訓練に参加した皆さんと一緒に考えて考える訓練です。

2 火災図上訓練の内容

訓練の進行役(ファシリテーター)が、刻々と変化する火災の状況を皆様に伝えていきます。

その状況下において、皆様ならどのように行動するのか参加者の方へ質問いたします。

ファシリテーターは、その回答をもとに訓練を進行していきます。最後に、訓練の過程で浮かび上がった課題やその対応策を皆様に発表していただきます。

なお、訓練は、概ね下表のとおり進行します。



【図上訓練の様子】

手順	内容	時間
訓練の目的とルールの確認	●火災図上訓練の目的や、円滑な訓練進行にあたってのルール等を説明いたします。	5 分
訓練開始	●ファシリテーターの指示のもと、訓練に参加していただきます。積極的に意見を発表してください。	35 分
課題抽出と対策の検討	●訓練により浮かび上がった課題と、その対策について皆様に発表していただきます。	15 分
まとめ	●課題とその対策のとりまとめや、訓練全体の振り返りを行います。	5 分
合 計		60 分

3 訓練に参加される方へのお願い

- 訓練の円滑な進行のため、火災図上訓練の前日までに、本チラシの内容をご一読いただくようお願いします。
- より多くの気づきが得られる訓練にするため、他の参加者からの発言に対して否定的な意見は述べず、議論がより活発に行われるような雰囲気づくりにご協力をお願いします。
- 訓練当日、本チラシをご持参いただき、訓練で気づいた課題や対策等について、裏面にご記入ください。

火災図上訓練で気づいた貴事業所における課題と対策等について

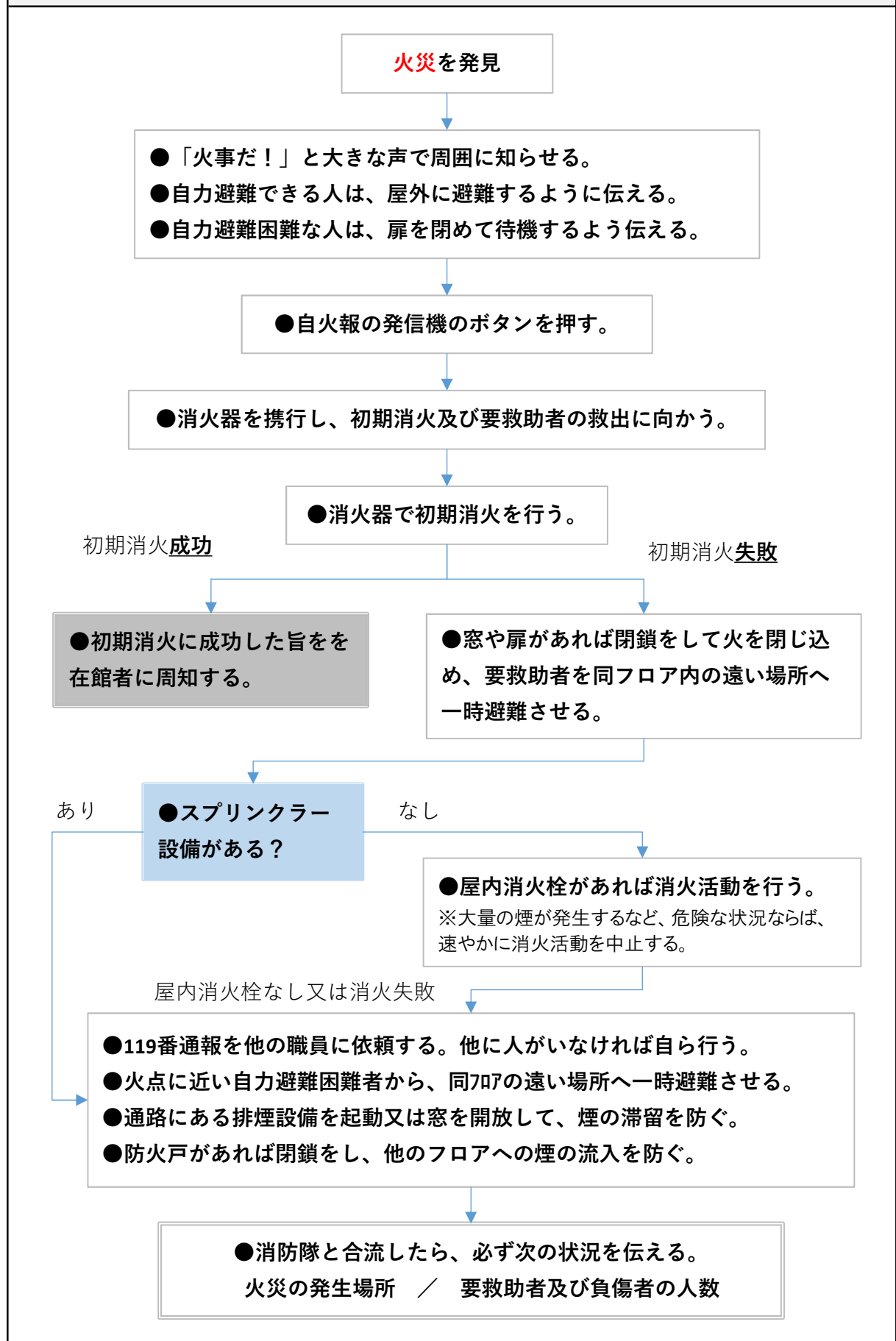
課 題	対 策

火災図上訓練のシナリオ(例)とポイント

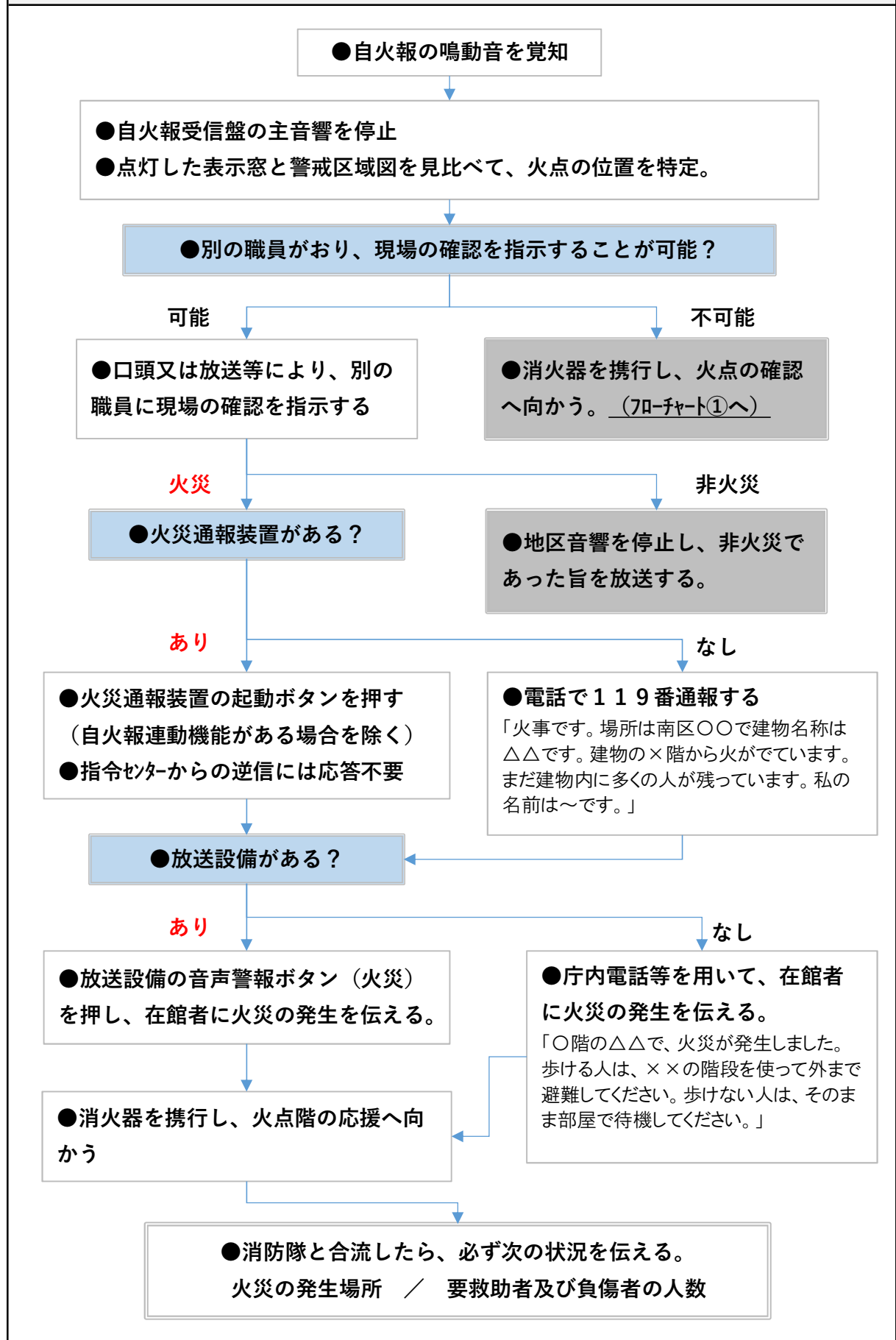
訓練のシナリオ(例:自火報設置対象物の場合)	ポイント
●本日は「火災図上訓練」を実施させていただきます。よろしくお願いします。 ●では、火災図上訓練を始めるにあたって、簡単にルール説明をさせていただきます。 ●火災図上訓練は、火災が起きた時に、どのような対応をすればよいか皆さんに考えていただく訓練です。 ●これから図面上で火災が発生したと想定しますので、「どのような対応をするべきか」私から皆様に質問させていただきます。積極的に発言していただきますようお願いいたします。 ●火災発生の前に、この建物にはどのような消防用設備が設置されているか教えてください。 ●今回の火災は〇時ごろに発生したと想定します。従業員は1階と2階に各1名いるとします。	●まず初めに、訓練の目的と、ルールを確認してください。参加者全員が別添1を事前に確認しているなら、簡単な説明で十分です。 ●消防用設備の種類と場所を明確にしてください。(消火器、屋内消火栓、自火報の受信盤に限る。) ●火災発生の日、時間、場所、勤務している従業員数及び勤務場所を示し、図面で明らかにしてください。
●では、火災が発生したと想定します。先ほど出していた消防用設備をフル活用して火災対応してください。 ●ジリリリリ！ベルが鳴動しました。まず、1階の従業員はどのような行動をとりますか？ ●2Fの従業員はどのような行動をとりますか？	●自火報等の鳴動音により火災を感知した想定の方が、より設備を活用した火災図上訓練になるのでお勧めです。 ●その時、だれがどうすればよいか、皆さんに質問してください。
●1Fの従業員が自動火災報知設備の受信盤を見ると〇〇の部分に光っています。どのように火点を探しますか？ ●火点室の扉を開けると自分の背丈くらい炎が上がっている状況でした。どのような行動をとりますか？	●自火報受信盤のどこを見て、火点の位置を特定するのかを皆さんに質問してください。
●119番通報は必要ですか？ ●火災通報装置が鳴っています。対応しますか？	●自火報と連動した火災通報装置がある場合、119番通報は不要です。
●火点室から煙が噴出してきます。どうしますか？ ●扉を閉めましたが、ドアの隙間から少しずつ煙が出てきます。どうしますか？ ●スプリンクラー設備が作動し、火災は鎮火したようです。どのようにスプリンクラーを止めるかわかりますか？ ●消防隊が到着しました。何を伝えますか？ 【訓練終了】	●初期消火に失敗したら、要救助者がいないことを確認のうえ、火点室からの延焼と煙の流出を防ぐため、出入口の扉を閉鎖するようにしてください。 ●消防隊が到着したら、出火場所、逃げ遅れと負傷者の有無を必ず伝えてください。

①火災を発見した職員の行動例

別添3



②自火報受信盤の付近にいる職員の行動例

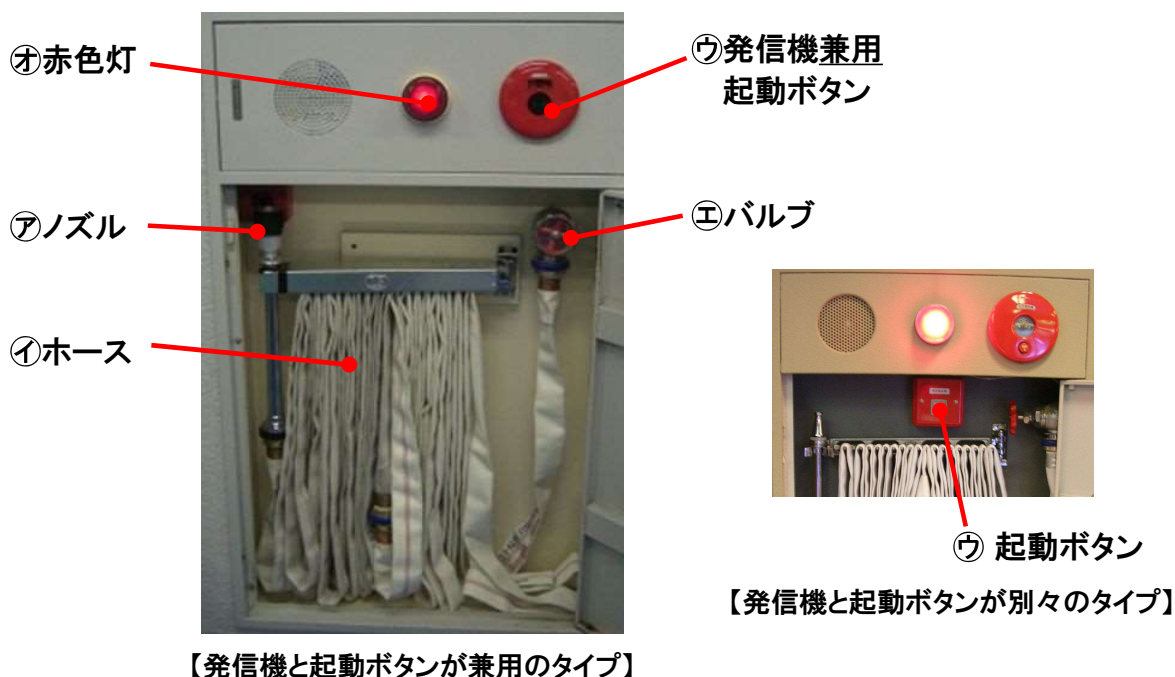


巻末資料

消防用設備等の 取扱い説明

①屋内消火栓設備(1号)の取扱い説明

▶初期消火に有効な消火設備です。1号消火栓は2名で操作します。



火災を発見したら・・・

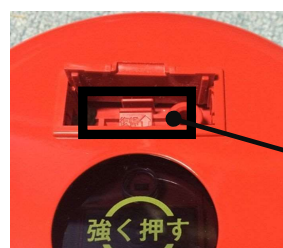
- ①筒先員はノズル③を持ちホース⑤を延ばす
 - ②操作員に対し「放水始め」と合図をする
 - ③操作員がバルブを開ける(左回転)
 - ④操作員が起動ボタンを押す
- ※発信機と起動ボタンが別々のものは、
起動ボタンの方を押す
- ⑤操作員が赤色灯の点滅を確認する
- その後、筒先員の補助に入る
- ⑥火元に向けて放水する

【参考：各種屋内消火栓の性能諸元】

	2人操作		1人操作		
	1号	易操作1号	2号	広範囲型2号	
起動方法	起動ボタン	バルブ開閉	バルブ開閉	バルブ開閉	
放水量(毎分)	130L以上	130L以上	60L以上	80L以上	
ホース長	15m×2本	30m×1本	20m×1本	30m×1本	
水平距離	25m以下	25m以下	15m以下	25m以下	
放水圧	0.17～0.7MPa	0.17～0.7MPa	0.25～0.7MPa	0.17～0.7MPa	

火災を消火できたら・・・

- ①バルブを閉める(右回転)
- ②起動ボタンを復旧する



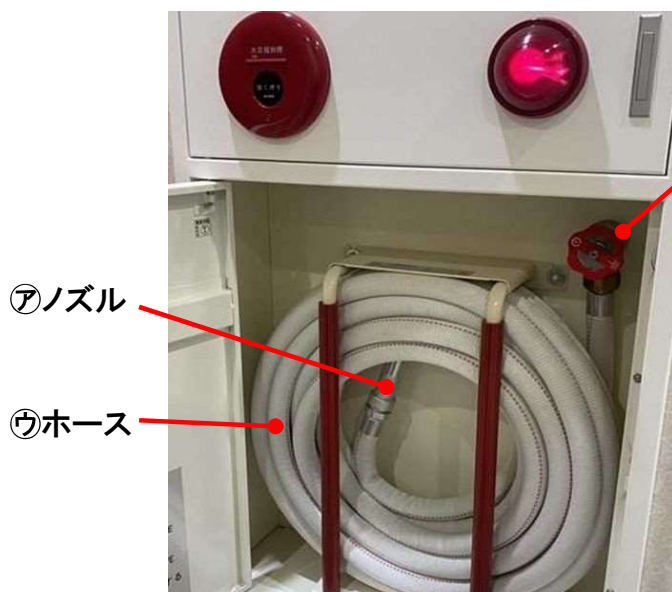
カバーを開き、
中にあるボタン
を押し上げる

- ③自火報受信盤の火災復旧ボタン⑦を押す
- 「自動火災報知設備の取扱い説明」を参照
- ④ポンプ室に向かい、ポンプ制御盤にて
停止ボタンを押す



②屋内消火栓設備(1号以外)の取扱い説明

▶初期消火に有効な消火設備です。1号消火栓以外は1名で操作できます。



【易操作1号消火栓】

①バルブ



【2号消火栓】

火災を発見したら・・・

- ①ノズルアを取り出す
- ②バルブイを開ける(左回転)
- ※起動ボタンを押す必要はない！
- ③ホースウを延ばす
- ④ノズルアのバルブを開ける(左回転)



【参考】
広範囲2号消火栓のノズルの一例

- ⑤火元に向けて放水する

【参考：各種屋内消火栓の性能諸元】

	2人操作		1人操作		
	1号	易操作1号	2号	広範囲型2号	
起動方法	起動ボタン	バルブ開閉	バルブ開閉	バルブ開閉	
放水量(毎分)	130L以上	130L以上	60L以上	80L以上	
ホース長	15m×2本	30m×1本	20m×1本	30m×1本	
水平距離	25m以下	25m以下	15m以下	25m以下	
放水圧	0.17～0.7MPa	0.17～0.7MPa	0.25～0.7MPa	0.17～0.7MPa	

火災を消火できたら・・・

- ①ノズルアのバルブを閉める(右回転)
- ②バルブイを閉める(右回転)
- ※起動ボタンを復旧する必要はない！
- ③自火報受信盤の火災復旧ボタンを押し
「自動火災報知設備の取扱い説明」を参照
- ④ポンプ室に向かい、ポンプ制御盤にて

停止ボタンを押す



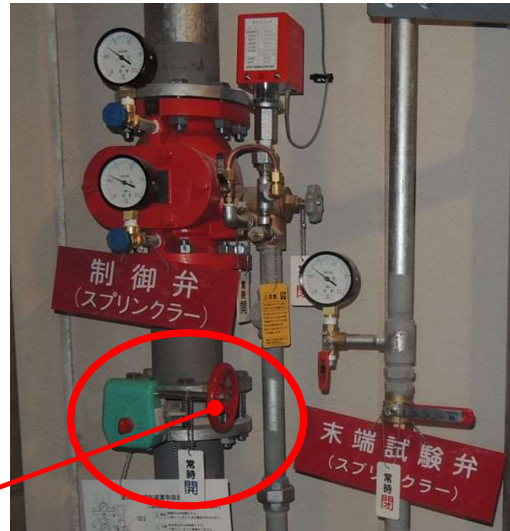
【参考】
1名で操作可能な消火栓であることを示す表示シール
(消火栓箱の扉に貼付)

③スプリンクラー設備の取扱い説明

▶火災の熱をうけて自動的に作動する消火設備です。ただし、消火後に散水を止める必要があります。



【スプリンクラーヘッド】



㊦制御弁

【制御弁室内の様子】

スプリンクラーが熱を感知すると・・・

- ①スプリンクラーヘッドが熱を感知する(自動)
 - ②ポンプが起動し、消火が行われる(自動)
- 同時に作動を知らせる警報音が鳴る

【スプリンクラーの性能等】

- ヘッドの直下の約2m内の火災を消火
- 全てのヘッドが作動するのではなく、熱を感知したヘッドのみが作動
- 通常のスプリンクラーなら、1～2個のヘッドで消火できる
- ただし、小規模な社会福祉施設に設置される特定施設水道連結型スプリンクラー設備は、延焼を防ぐためのものであり、消火性能は高くないので過信しない。



【補助散水栓】

- ヘッドの取付不要な便所や階段部分をカバーする設備
- 操作方法は、「屋内消火栓設備(1号以外)の取扱い説明」の例と同じ

火災を消火できたら・・・

- ①出火階の制御弁室(下図参照)に向かう

制 御 弁
(スプリンクラー)

- ②「常時開」の札がかかった制御弁㊦を
表示方向に従い閉鎖する

- ③ポンプ室に向かい、ポンプ制御盤にて
停止ボタンを押す

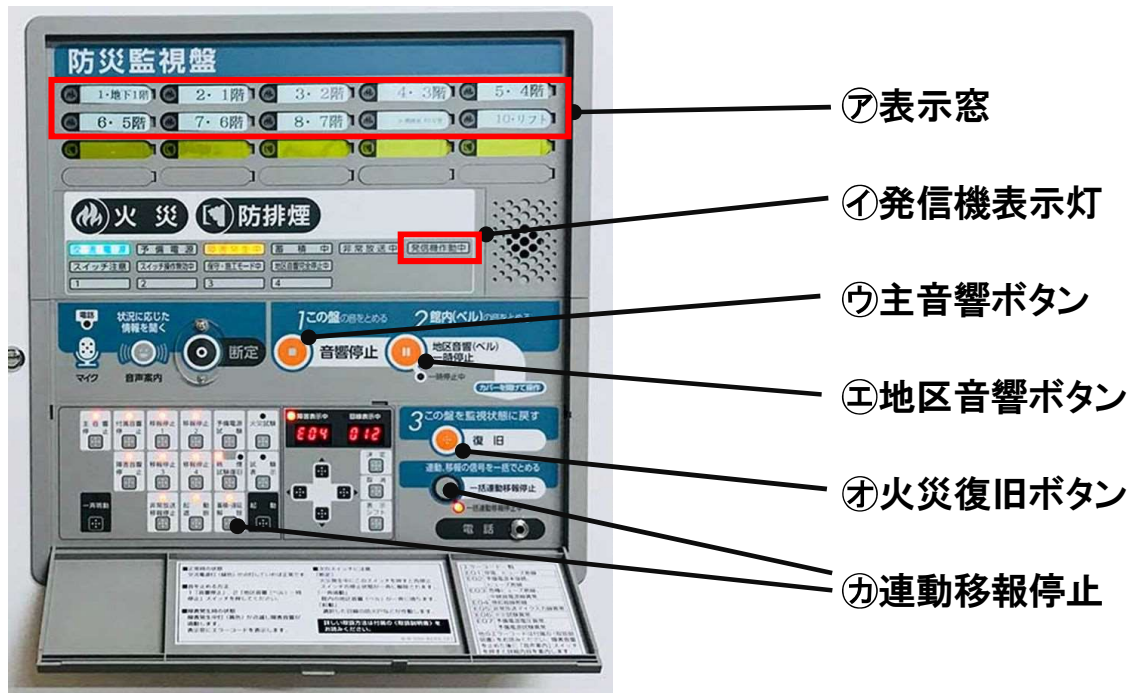


【水損を防ぐためのポイント】

- 制御弁室及びポンプ室の場所を確認しておく
- 制御弁室及びポンプ室の扉が普段施錠されている場合、鍵の保管場所を確認する

④自動火災報知設備の取扱い説明

▶火災の発生を捉え素早く警報を発する設備です



警報音が鳴ったら・・・

- ①受信器の表示窓⑦を確認する
- ②警戒区域一覧図と照合する
- ③発信機表示灯①の点灯状況を確認する
- ④主音響ボタン⑦を押して音を止める
- ⑤消火器を持って現場へ向かう 又は
関係者に連絡し現場を確認してもらう

火災

非火災

初期消火
119通報
避難誘導

右欄へ

非火災と断定できたら・・・

- ①地区音響ボタン⑧を止める
- ②非火災の旨を館内に周知する
- ③警戒区域内で作動した感知器又は
発信機(①点灯時のみ)を特定する
- ④発信機が押された場合は復旧する



カバーを開き、
中にあるボタン
を押し上げる

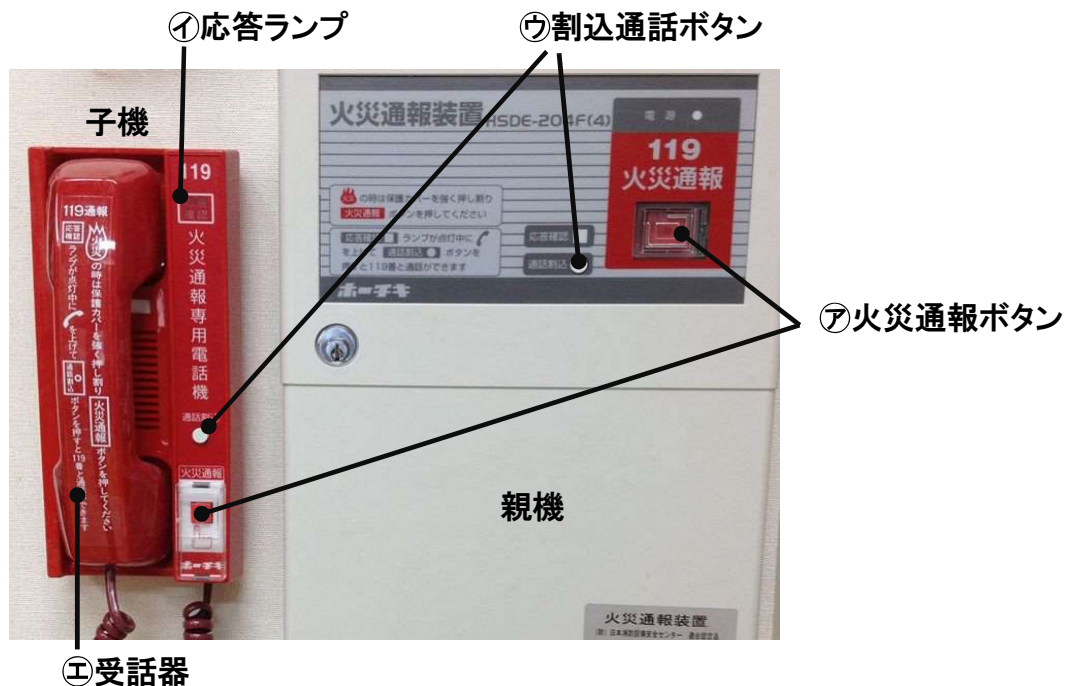
- ⑤火災復旧スイッチ⑨を押す

【追加で行うこと】

- 主音響等ボタンがスイッチ式の時
主音響・地区音響スイッチを定位に戻す
- 屋内消火栓のポンプが起動している時
ポンプ室内の制御盤でポンプを停止する

⑤火災通報装置の取扱い説明

▶ボタン1つ又は自動火災報知設備と連動して迅速に119番通報を行う装置です



感知器作動！火災なら・・・

自火報との連動機能※1

あり

初期消火
避難誘導
に専念

なし

③のボタン
を押す
(どちらか一方)

初期消火
避難誘導
に専念

※1 自火報との連動機能は、消防法により病院、有床診療所、認知症高齢者グループホーム等の施設に対し設置が義務付けられています。

感知器作動！けど非火災なら・・・

自火報との連動機能※1

あり

次の①～④のいずれかにより、非火災の旨を消防

なし

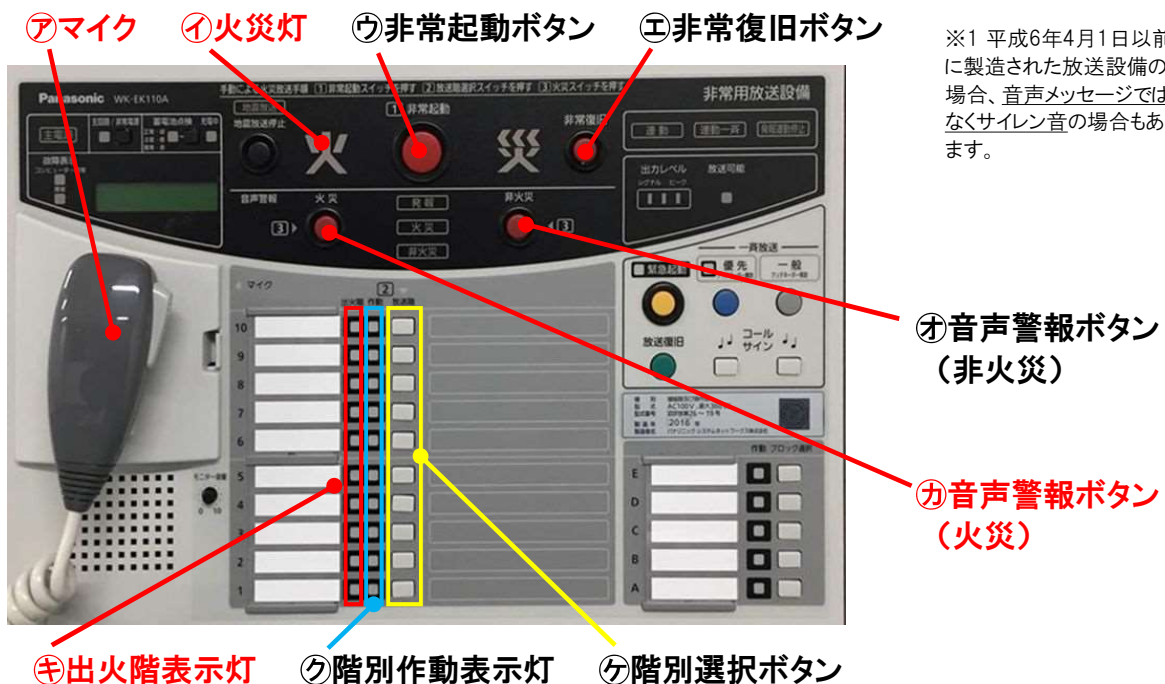
操作不要

※2 非火災の旨を連絡しないと、消防隊が出動します

①火通の起動直後で、応答ランプ①が点滅状態の時に、割込通話ボタン②を押して通報を取り消す
②音声メッセージの再生中、応答ランプ①が点灯状態の時に、受話器④をとり、割込通話ボタン②を押して管制員に非火災の旨を伝える
③音声メッセージが流れた後、消防から逆信がくるので、受話器④をとり管制員に非火災の旨を伝える
④逆信を取り損ねた場合、固定電話等にて119番通報をし、非火災の旨を伝える

⑥非常警報設備(放送設備:自火報連動あり)の取扱い説明

▶火災の発生や避難を音声※1で呼びかける設備です。自火報と連動して作動する例もあります。



※1 平成6年4月1日以前に製造された放送設備の場合、音声メッセージではなくサイレン音の場合もあります。

「火災感知器が作動しました」の放送が流れたら・・・

- ①**感知器発報放送**(女性の声)が流れる
- ②火災灯②及び出火階表示灯⑦が点灯する
- ③**消火器**を持って出火階へ向かう 又は関係者に連絡し出火階を確認してもらう

火災

非火災

音声警報ボタン
(火災)⑥を押す

右欄へ

※2 発信機での起動時は階数の放送なし

火災放送「火事です、火事です。(〇階)※2で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」(男性の声)の放送と警報音が流れる。なお、マイク②のスイッチを入れて話すと、その放送が優先される。

非火災と断定できたら・・・

- ①音声警報ボタン (非火災)⑤を押す
- ②「自動火災報知設備の取扱い説明」の連動移報停止ボタン⑥を押す
- ③同説明の「非火災と断定できたら・・・」の③～⑤により、自火報受信盤を復旧する

※自火報を先に正常に戻さないと、非常放送は止まらない!

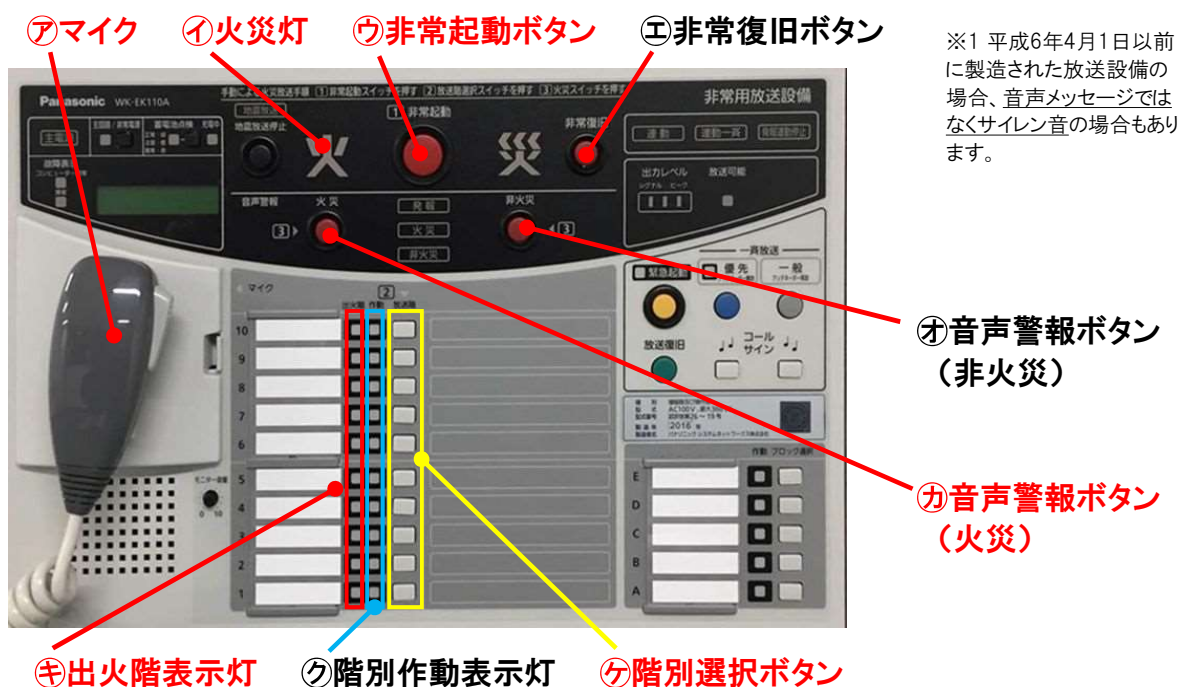
- ④非常復旧スイッチ④を押す

【放送設備の機能の紹介】

- 感知器発報放送の後、一定時間の経過又は別の感知器の作動で、**自動的に火災放送**に切り替わる。
- 大規模な建物の場合、在館者のパニックを防ぐため、当初は放送範囲を出火階とその直上階に限定している。なお、一定時間が経過(10分以内で任意に設定)すると、自動的に全館放送へ切り替わる。
- 階別選択ボタン⑨により、任意の階のみに放送することもできる。

⑥非常警報設備(放送設備:自火報連動なし)の取扱い説明

▶火災の発生や避難を音声※1で呼びかける設備です。自火報と連動して作動する例もあります。



自火報の警報音が鳴ったら...

- ①非常起動ボタン②を押す
- ②自動火災報知設備の受信盤の表示窓⑦より、感知器等が発報した階を特定する
- ③上記②と同じ階の「階別選択ボタン⑧」を押す(以下、出火階という)
- ④出火階とその直上階に**感知器発報放送**(女性の声)が流れる
- ⑤**消火器**を持って出火階へ向かう 又は関係者に連絡し出火階を確認してもらう

火災

非火災

音声警報ボタン(火災)⑤を押し、上記③の区域に火災放送(男性の声)を流す

右欄へ

非火災と断定できたら...

- ①音声警報ボタン(非火災)④を押す
 - ②非常復旧スイッチ③を押す
- 注意:放送設備はこれで停止できるが、自動火災報知設備の警報音の停止は別途、「自動火災報知設備の取扱い説明」の「非火災と断定できたら...」により行う

【自火報との連動機能の有無について】
●消防法に基づく放送設備の設置が義務ではない対象物の場合、自火報と放送設備の連動機能がない可能性があります。

火災図上訓練用アイコン

南消防署が火災図上訓練で使用しているアイコンです。

消火器や自動火災報知設備など、事業所の形態に合わせてぜひお使いください。

おはじき等にこのイラストを貼っていただくと、イメージがわいて火災図上訓練が盛り上がります。



一部イラストは、「いらすとや」様に特別に許可を頂いて使用・配布しております。
火災図上訓練以外の目的での素材の利用は禁止いたします。

名古屋市南消防署

〒457-0038 名古屋市南区桜本町24番地

☎052-825-0119

南消防署ホームページでは防火・防災に役立つ情報を掲載しています。ぜひご覧ください！

